

「大綱見直しに関する要望書」ご説明資料

A 「自殺」及び「遺族」に対する無理解、偏見・差別の実例とこれにより生じる問題の例

愛するものを自殺で失った場合にこうむるストレスは破壊的レベル—強制収容所暮らしを経験するのにほぼ匹敵する—に達するとされています(米国精神医学協会「精神障害の診断例と統計学的に見た発症の原因」より)。遺族がこのような衝撃と悲嘆にくれる中、自殺した本人や遺された遺族に対する、「根強い無理解と偏見」が、遺族の苦しみを増しています。

(無理解な周囲の発言、偏見)

「元気を出して」「早く忘れなさい」「あなたひとりが苦しいわけではないのよ」

「もう一人、お子さんを作ったらどうですか」「配偶者が、健在であるだけでもよかったですね」

「もう年数も経つし、そろそろ前向きにがんばってみたら」とかけられる言葉が好意からであっても辛い。

「自殺を口にする人は自殺しない」「命を粗末にしている」「死ぬ元気があるなら生きられる」

「縁起が悪い」「死ぬ勇気があるのなら何でもできたはず」

「自殺するのは心の弱い人だ」「恥ずべきことだ」「最も身勝手な行為の1つだ」

「弱い人が逃避の手段として死んでいく、卑怯だ」「死にたい人は勝手に死ねばよい」

「自殺するやつは会社の屑だ」

「育て方に問題があったのではないか」「家庭に愛情と思いやりがあれば防げたのではないか」

「家族は、なぜ気付かなかったのか」「あなたが殺したのも同然よ」

「愛情を持って相手の言葉に耳を傾ければ自殺しようとしていた人を止めることができるはず」と言われた時、心に刃を刺されたような身の置き所のない思いに襲われた。

「あの家は精神的病の家系だから自死者が出たのだ」、と陰で言いふらされることもある

(宗教者関係など)

- ・ 遺族が通夜や葬儀の法話で僧侶から、「命を粗末にしたら人間は浮かばれない」「自殺は許されないことだから地獄に落ちる」と言われたといった例。
- ・ 葬儀の際「いのちの尊さを伝える」との回答が相当数ある。(浄土真宗の僧侶へのアンケート結果)
- ・ 自殺は神の意思に反した罪であって、自殺者の葬儀はできないとの理由から断られた。
- ・ 『教会は、..これまで自殺者に対して、冷たく、裁き手として振る舞い、差別を助長してきました。今その事実を認め、わたしたちは深く反省します。』 (日本カトリック司教団公式メッセージ 2001 より)

(詐欺まがいの請求など)

- ・ 葬儀関係: ひどい業者だと通常10万円くらいの遺体の処置代に対して、自殺だからと何かと理由をつけて加算し、50万円くらいに吊り上げることもある。
- ・ グリーフ詐欺
- ・ 「業の深い死に方をしているから、いっぱい供養しないといけない」と葬儀の際、僧侶から言われた。

(遺族への偏見と人権の侵害)

- ・「自殺防止の観点からも(遺族への)ペナルティは存在するべきです。」
- ・「自殺の原因が遺族なら自業自得」
- ・「残された遺族の精神的、経済的、社会的な負担、悲痛、そうしたさまざまな心配が自殺を思い止まらせている。」
- ・「自殺者を出すような家の家族」「すさんだ家庭」
- ・親の自殺の際、教師が生徒にクラス(教室)で謝罪させた。
- ・不当な中傷や攻撃、差別。婚姻や就職への支障など。

(自殺防止活動に携わって)

「保健師なのになぜ防げなかったのか」といわれショックを受けた。
「自殺は防ぐことができる」と研修会や会議で聞くと、自責感が強まり落ち込むこともあった。

(遺族への影響)

- ・「同じ死なのに、病死や事故死と自死とではどうしてこれほど扱いが違うのか」という嘆きは共通です。
- ・「忌まわしいもの」としてとらえられ、「公認されない死」「語れない死」とも言われる状況が生じています。
- ・自死遺族と病死・事故死の遺族とは、身近な人の死という共通点はあるが、自殺に対する偏見ゆえに自死遺族は体験を語りづらい状況がある。
- ・悲嘆を語ることの困難さから、遺族の心身の不調や支障をたらすことも多く、また絶望の末に、あとを追おうとする人も少なくありません。

〔出典〕

第8回自殺対策推進会議(内閣府)報告資料
自殺未遂者・自殺者親族等のケアに関する検討会 議論のまとめ (厚生労働省)
「自殺のコスト」 雨宮処凜 株式会社太田出版 2002年
「自殺した子どもの親たち」 若林一美 (ちいさな風の会主催者) 青弓社 2003年
「自殺する私をどうか止めて」 西原由記子 角川書店 2003年
「自ら逝ったあなた、遺された私 家族の自死と向きあう」
グリーケア・サポートプラザ編 朝日新聞社刊 2004年
「自殺で家族を亡くして」 全国自死遺族総合支援センター編 三省堂 2008年
「封印された死と自死遺族の社会的支援」 現代のエスプリ 至文堂 2009
「自殺危機とそのケア」 斎藤友紀雄 2009年
ちいさな風の会 20周年によせて
自死、遺された人たち(2)～求められる宗教者の役割～ 教学伝道研究センター「別離の悲しみを考える会」
浄土真宗本願寺派「宗報」
(財)大阪府人権協会 HP、他 HP 掲載情報
自死遺族権利擁護研究会における遺族の報告
新聞報道 など